可仕旨相願候に付、願之通町人共へ被下置候、夫に付去々年修復掛替も仕候得共、年久敷橋に御座候間、段々破損仕、近々の内又々修復掛替も不仕候ては、斷絶可仕候、然共大金懸り候義ニ御座候間、右町々割合金ニ而者難計御座候間、依而相談之上、新規掛替修復料拾箇年の内、深川中家持共幷に店借之者共、其外往來の者ども、右之通壹人ニ付貳錢ヅヽ差出し、橋往來いたし候樣仕度相願申候、

一右出錢取立仕方之儀者、永代橋に新規兩橋詰に、九尺四方の番小屋を相願、深川家持共の内貳人宛替々毎日付添罷在り、武家は相除、其外は往來の者共ゟ貳錢ヅヽ取可申候、尤喧嘩口論等仕出し不申候樣、家持ども取はからひ可申候、右毎日の出錢金子に直し取置、帳面に記置、橋入用金に仕度旨、深川總町人幷永代ばし向寄江戸町人の者共差支無之哉、此儀名主ども へ申付相尋させ候處、右之橋渡り候者計貳錢ヅヽ出錢仕候義ニ御座候へば、何の障りも御座なく候、尤大火の節は出錢取不申候、先年永代ばし無御座候節は、賃錢を出し、小船にて渡り候に付、風雨滿水の節、通路相止、急用之者抔、殊之外難義仕候、渡し舟同意御座候間、出錢仕り候而も、橋斷絶可仕候得者、深川筋用事は勝手次第に御座候旨、江戸町々名主共申之候外、相障りも無之候間、十箇年の間出錢取候義、願之通り可申付哉、奉伺候、以上、

四月　　中山出雲守
　　大岡越前守

右之書付、四月二日御用番井上河内守殿へ進達しけるに、猶亦いろ〳〵御評義之上、同五月十八日、内寄合に町人共呼出し、右願之筋餘義なく聞候得共、最初願之趣と相違いたし、取上難きよし越前守申渡、○中略

但假橋渡賃之事、其後ニ再訴ニおよび、御聞屆ありけるにや、今はおしなべて斯る事にはなり